校区防災だより

No.8

発行: 校区自主防災対策本部　　発行日: 2021 年（令和３年）６月 15 日発行

～3 月 7 日　防災訓練を実施しました～

この１年をふり返ってみると…

2020 年３月　新形コロナウイルス感染拡大防止のため、
魚住まちづくり協議会の防災訓練が中止

⬇

地区防災計画 ＋ 感染症への対応　が必要に

まちづくり協議会の防災倉庫①

新型コロナウイルスで大変な時にも、災害は起こるんです！

普段から訓練しておくことは大切！ということが再認識され、
2021 年３月７日　魚住まちづくり協議会では、少人数での防災訓練を実施しました。
ポイントは、

- **最初に駆け付けた住民の手によって避難所開設のお手伝いができるようにすること。**
- **誰でも避難所開設の準備ができるように考案された「避難所に来られたあなたへ」というカードを用いて実際に行動ができるかの検証。**

実際のカードはこのようなケースに入っています

避難所の運営をスムーズにするために、避難所に入って頂く前段階で避難者を誘導し、３つのグループに分けるところまでを地域住民役の方々に手伝っていただきました。

① 要支援者+介助者
② 体調が優れない方
→別棟へ案内
③ ①②に該当しない人

駆け付けた地域の方々に協力を要請します

カードに書かれた指示を確認

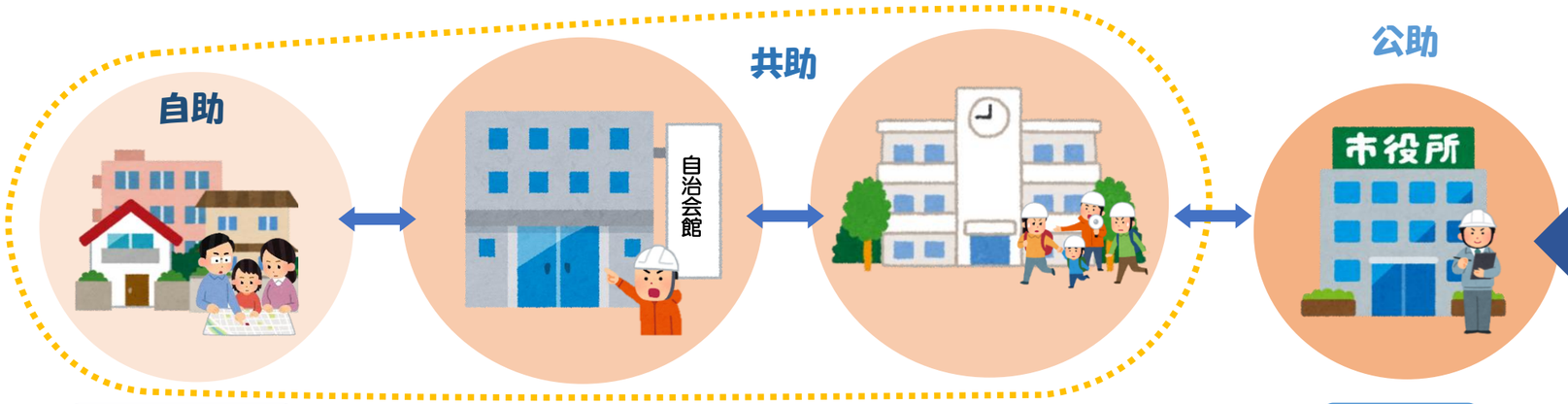
門の前で、避難してきた住民に対応します

運動場に赤コーンを置き、グループ分け

→「避難所に来られたあなたへ」カードを用いての検証を受けて…

カードの作成に関わらなかった者が実際に訓練を行い、カードの意図がきちんと伝わるかどうか検証しましたが、予定通りの動きができなかった点がいくつかありました。また、訓練後の反省会では、「もっとこうした方が分かりやすいのでは？」という意見が多く出されました。
今回の反省点を生かし、今後も改良と訓練を重ね、完成度を高めていきたいと思います。

自治会でも色々な取り組みが始まっています！



家庭でできること

隣近所・自治会でできること

校区・地域全体でできること

公的な支援

～まちづくり協議会での取り組み～

- 市の指定避難所である魚住小学校において、地域住民の手で避難所開設の準備ができるよう訓練する。
- 各自治会とも連携を取りながら、公的な支援との橋渡しができるようにする。

～各自治会での取り組み～

各自治会で実施された
訓練の内容をご紹介します！

金ヶ崎自治会

2021 年 1 月 16 日(土)　午後 5 時～

訓練の目的

1. 台風・集中豪雨による停電を想定した避難所開設
2. 高齢者・要支援者の夜間避難訓練
3. LINE を使った情報伝達と避難状況の報告等の管理体制の検証

効果・問題点

- 発電機・照明灯を用いて、夜間の停電を想定した避難所開設訓練ができた。
- コロナ対応での避難所の収容人数を知ってもらうことができた。
- コロナ対策をしながら要支援者の誘導ができた。
- LINE の普及の問題もあり、マイク放送を同時に活用する必要性も分かった。

金ヶ崎北自治会

2021 年 3 月 7 日(日)　午前 9 時～

安否確認カード

訓練の目的

1. 個人家庭の防災力を高める
2. 自治会として安否の確認を把握する

災害想定

午前 9 時　震度 5 強の発生

訓練内容

- 午前 9 時　「安否確認カード」を玄関前に貼り出す。
- 9 時過ぎ　各班長が「安否確認カード」の数を確認。
- 午前 10 時　「安否確認カード」を回収して終了。

「緊急時持ち出し連絡ばん」も
この機会に見直しておきましょう。

浜西自治会

2021 年 3 月 7 日(日)　午前 9 時～

訓練の目的

災害発生を想定して、各家庭で安否確認カードを出す訓練を行う

訓練内容

- 午前 9 時に災害が発生したと想定。
- 午前 10 時までに「安否確認カード」を外から見えるところに貼り出す。
- 担当者が見回りをして終了。

安否確認カードは自分や自分の家族の安否を周りに知らせるもので、自助の基本です！訓練をきっかけに日頃の備えも確認してみましょう。

清水ヶ丘自治会

2021 年 3 月 14 日(日)　午前 9 時 30 分～

今回の訓練

従来の訓練に加えて、地域の一時避難所（集合場所）としての整備を進めるため、以下の 2 点に取り組んだ。

1. マンホール型トイレの設置（2基）
2. 仮設テントの機能強化

訓練内容

- 非常用発電機のテスト、防火資機材の確認、非常食の提供等の訓練の他に、断水に備えて「マンホールトイレ」の設置の訓練を実施。
  （一般用・車椅子対応用　各 1 基ずつ）
- 地域に住んでいるベトナム実習生も一緒に訓練に参加した。

備えあれば　憂いなし !?

Vol.3

災害時、避難所へ行かなくても済むのであれば、自宅で過ごすのが１番いいですよね。
では、自宅で安全を確保し、１週間無事に過ごすためにはどんな備えをしておけばいいのでしょうか？

自分の命は自分で守る

① まずは環境づくり　～自宅で安全に過ごすために事前にできること～

- 家の耐震性をチェックしておきましょう。
- 家具の点検。倒れる危険のある家具（重いもの、背の高いもの）は固定しておきましょう。

Point!

昭和 56 年５月以前に建築された住宅は、専門家に耐震診断をしてもらったうえで耐震化を検討しましょう。助成金もあります。

② 就寝時の備え　～最低限必要なものをすぐに手の届く場所に～

- 靴（ガラスなどで危険なため）
- 懐中電灯・交換用の電池
- 軍手（革手袋の方がより安全）
- 笛（閉じ込められた時、助けを呼ぶため）

Point!

夜間に地震が起こり、停電になったら周りの状況が分からず危険です。床に割れた食器等が散乱していることもあります。怪我をしないように靴を履いて移動しましょう。

③ 備蓄品

- 家族が１週間自宅で過ごせるだけの食料品・飲料水を備蓄しておきましょう。
- 食料品は常温保存可能なものをローリングストックしましょう。
- 生活用水としてふろの残り湯をためておきましょう。
- トイレが使えなくなった時のために簡易トイレを備蓄しておくと安心です。

Point!

ゼリー飲料は腹持ちもよく、利尿作用が少ないのでお勧めです。

④ 避難する場所・ルートを知っておく

- 家族でハザードマップを参考に話し合う
- 色々な災害について知っておく（地震・風水害など）

実際に災害が起こったら・・・

- まずは自分の身を守る。
- 揺れが小さくなったらドアや窓を少し開け、出口を確保
- 家の中で安全な場所に出る（廊下等、上に物がない所）トイレは閉じ込められる可能性があるため NG です。
- 通電火災の予防のため、ブレーカーを落とす。
- ガスは、震度5以上でマイコンメーターが自動で遮断するようになっています。大きく揺れているときは危険なので火に近づかないようにしましょう。
- 周りの人の安否確認をする。
- 情報収集（テレビ・ラジオ・インターネットなど）

- **自宅で安全確保ができる場合は自宅避難。自宅にいては危険な時は避難所へ。**
- 災害発生の時間に合わせて避難方法を考えておく。　職場・学校・自宅　／　昼間・夜間
- 避難所へ行けなかったとき、行っても入所できなかったときはどうするか。
自分たちの避難所・安全な場所について考えておきましょう。